身体障害者診断書・意見書（呼吸器機能障害用）

総括表

氏　名	明治 大正 昭和 平成　　年　　月　　日生（　）歳	男　女
住　所		
①　障害名（部位を明記）		
②　原因となった疾病・外傷名	交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、 自然災害、疾病、先天性、その他（　　）	
③　疾病、外傷発生年月日	年　　月　　日・場所	
④　参考となる経過及び現症（エックス線写真及び検査所見を含む。） 障害固定又は障害確定（推定）　　年　　月　　日		
⑤　総合所見 〔軽減化による再認定　　要　・　不要〕 〔再認定の時期　　年　　月〕		
⑥　その他参考となる合併症状		

上記のとおり診断します。併せて以下の意見を付します。

年　　月　　日

病院又は診療所の名称　　電　話（　　）

所　　在　　地

診療担当科名　　科　医師氏名　　㊞

身体障害者福祉法第15条第３項の意見（障害程度等級についても参考意見を記入のこと。）

障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に

・該当する　　（　　級相当）

・該当しない

※「該当する」「該当しない」の選択及び意見等級は、必ず記載してください。

注　１　障害名には、現在起っている障害、例えば両眼失明、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、角膜混濁、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。

２　総合所見には、将来の再認定の必要性、必要な場合はその理由（障害が重度化する可能性があるのか、軽減する可能性があるのか）及び再認定を行うべき時期を必ず記入してください。

３　障害区分や等級決定のため、改めて身体障害者診断書・意見書の記述についてお問い合わせする場合があります。

４　程度変更に伴う再申請については、新しく追加となる障害内容の記載のみではなく、現在の手帳の障害内容についても障害が存在していれば、併せて診断書に記載してください。

呼吸器の機能障害の状況及び所見

（該当するものを○で囲むこと。）

1　身体計測

身長　　cm　　体重　　kg

2　活動能力の程度

ア　激しい運動をしたときだけ息切れがある。

イ　平坦な道を早足で歩くとき、又は緩やかな上り坂を歩くときに息切れがある。

ウ　息切れがあるため同年代の人より平坦な道を歩くのが遅く、又は平坦な道を自分のペースで歩いているときに息切れのため立ち止まることがある。

エ　平坦な道を約１００メートル又は数分歩くと息切れのために立ち止まる。

オ　息切れがひどく家から出られず、又は衣服の着替えをするときにも息切れがある。

3　胸部エックス線写真所見（　　年　　月　　日）

ア　胸膜癒着（無・軽度・中等度・高度）

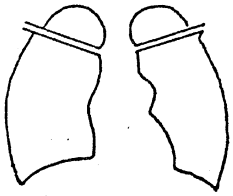
イ　気腫化（無・軽度・中等度・高度）

ウ　線維化（無・軽度・中等度・高度）

エ　不透明肺（無・軽度・中等度・高度）

オ　胸郭変形（無・軽度・中等度・高度）

カ　心・縦隔の変形（無・軽度・中等度・高度）



4　換気機能（　　年　　月　　日）

ア　予測肺活量　　⌴・⌴⌴L　（実測肺活量　　⌴・⌴⌴L）

イ　１秒量　　⌴・⌴⌴L　（実測努力肺活量　⌴・⌴⌴L）

ウ　予測肺活量１秒率　⌴⌴・⌴％（$=\frac{イ}{ア}\times 100$）

※測定困難な場合は、その理由

（　　）

※アについては、下記の予測式を使用して算出すること。

肺活量予測式(L)

男性　0.045×身長（cm）－0.023×年齢（歳）－2.258

女性　0.032×身長（cm）－0.018×年齢（歳）－1.178

（予測式の適応年齢は男性１８～９１歳、女性１８～９５歳であり、適応年齢範囲外の症例には使用しないこと。）

5　動脈血ガス（　　年　　月　　日）

注　安静時、通常の室内空気吸入時のものとすること。

ア　O_2分圧　　⌣⌣⌣　・　⌣Ｔｏｒｒ

イ　CO_2分圧　　⌣⌣⌣　・　⌣Ｔｏｒｒ

ウ　ｐＨ　　⌣・⌣⌣

エ　採血から分析までに時間を要した場合⌣⌣時間⌣⌣分

オ　耳朶（じだ）血を用いた場合：〔　　〕

6　その他の臨床所見

ア　酸素療法の適用　　有（　　年　　月　　日導入、毎分　　吸入中）・無

イ　人工呼吸器の常時使用　　有（　　年　　月　　日導入）・無

ウ　その他（Sao2（Spo2）値の推移等）